

シンポジウム詳録 |
現場からの医療改革推進協議会09



Vol.4

足立信也

(参議院議員、厚生労働大臣政務官)

4回連続でこの会には出席させていただいております。ここに来る前に、第5回目のがん患者大集会在、がんセンターがメイン会場で全国18会場で行われておりましたので、そちらにも参加してきました。今回5回目で3回目の出席です。そこで共通の話題は、私は挨拶で申し上げたのですが、ワクチン行政を何とかしたいということです。一時予防についてです。やるべきことなのは、がんについても今回の新型インフルエンザについても、ワクチン行政を何とかしたい。予防医療を何とかしたい。そういうことは申し上げました。

そして、輸血血液の不活化の問題、それからヒブワクチンのことを民主党のマニフェストに書いていただいたということを入れていただきました。マニフェストの本体を書かれたのは鈴木寛さんと、私が厚生労働部門の政策集のインデックスと医療政策の詳細版を書かせていただきました。

そこで、今までの話を概括するようなことを先に申し上げたいと思います。まずはメディアの方々に少し私も困っております。具体的な例が、例の新型インフルエンザワクチンの二回接種か一回接種かという話になるのですが、今久住先生より10mlバイアルの話も出ましたけど、この10mlを決めたと言いますか意見が出たのも専門家の意見交換会です。それを、厚生労働省がその後判断して、パブリックコメント後に10mlにしてやるということになりました。今まで、専門家の意見交換会で何か決めたということは一度もないはずですが、何で今回だけそのような報道になったのかは非常に疑問で、中には足立が仲の良い昔の友達を呼び集めてという報道もありました。私は、あの時来て下さった山形や神戸から馳せ参

じて下さった方々に大変感謝していますが、その森兼啓太先生と岩田健太郎先生は、あの日初対面です。初めてお会いしたわけです。少しさかのぼりますが、実は9月16日に森澤雄司先生も2週間位前に初めて会いました。どうしてメディアの方はそこら辺を確認しないのかなと思います。あの場で私は、森兼先生に名刺を渡したのを皆見ているんですよ。

それはさておき、前置きが長くなって申し訳ございませんが、先程の10mlのパブコメ、そしてその前の専門家の意見交換会は8月か9月で、パブコメは9月の頭です。我々が政権を取ったのは9月の16日。私が政務官に任命されたのが9月18日です。そこから、12日間の中に何をやらなければいけなかったかということです。その12日間の中に5連休がありました。土日が2日ありました。7日間休みです。実質開いているのは5日間だけで何をやらなければいけなかったのかと言いますと、まず考えられるのは出産育児一時金の直接払いです。これだと、現場が日本のお産の48%を担っている診療所、助産師さんのところは、これでは生活出来ません。お産が継続出来ないのです。そういうことで、何としても猶予を6ヶ月つけて、医療機関への貸し出し金利を1.6まで下げて、担保条件も3,000万円までは担保なしで融資出来るというところまで変えて、6ヶ月後には、何としても2ヶ月間という支払いのタイムラグを無くすという約束をして、6ヶ月猶予しました。

インフルエンザについては、今度臨時国会で出される法案もそうですが、実は9月29日に対策本部が決まっていました。その中の原案がほとんど決まっていました。しかし、これは私は納得出来ない内容で、その時森澤先生、弁護士の井上先生らと二回程緊急に対策会議を開いて内

足立信也

(あだち・しんや) 参議院議員。1982筑波大学医学専門学群卒業、医学博士。日本外科学会指導医。筑波大学臨床医学系外科助教授、国立霞ヶ浦病院消化器医長、筑波メディカルセンター病院診療部長などを経て2004年参議院議員初当選。参議院厚生労働・行政監視・倫選特委員、参議院少子高齢社会調査会理事、民主党政策調査会副会長、民主党副幹事長などを歴任。2009年9月より、厚生労働大臣政務官を務める。

Q&A 質疑応答

会場 (久保) 成育医療センターの産科の久保と申します。僕の考えに間違いがなかったのかということでお聞きしたいのですが、2,700万本というのは3月までに出荷する国内ワクチンのことですか？

足立 年度内です。

会場 (久保) それで、問題はこれが例えば2月や3月になってもワクチンを打つということはナンセンスだと思いますが、今の時期がやはり私は一番大事な時期だと思うので、そうすると、国内メーカーを助けるとか関係なく、輸入ワクチンでもどんどんやっていくということは可能なのでしょうか？

足立 不可能です。まず、国産については、先程から申し上げているように増殖しているものですから、順次にしかだんだん今二週間に一回ですが、それしか出荷出来ません。出荷量は、どんどん増えていくわけです。これが一点。

それから、日本のワクチン接種が遅いと遅いと言われていますが、世界的に見てもかなり早い5、6番目位です。当然ワクチンというのは、病体と言いますか病原を特定して、それから培養して商品を開発して、承認して打ち始める。4ヶ月は掛かります。だから、今世界でほぼ同時です。

それで、輸入の件に関して申し上げますと、これはカナダ、ドイツ、フランス、イギリスで承認されなければ日本に特別承認は下りません。そのための法律が国会に提出されていて、この審議が終わらないと出来ません。そういうことですから、今どんどん増やしてワクチン接種をしるということは不可能です。

会場 (長尾) MRICに書かせていただいた長尾と申します。私は開業医ですが、今保健所ということでお話でしたが、小学生がやはり学校でということ非常に集団接種か任意接種か難しい問題だと思うのですが、学校の中で打つということは可能なのでしょうか？

足立 難しい問題です。9月中旬に保健所や保健センターで打つことを説得と言うと語弊がありますが、やることすらかなりの抵抗にあいました。これを学校でやるということになりますと、文科省の話が出てきますが、さらに抵抗があることは間違いございません。

会場 (長尾) その抵抗を何とか突破して欲しいのですが。

足立 まずは、保健所や保健センターを活用すべきです。そのように私は思います。これは、実際に予防接種が自治体の業務になっていて、そのやり方のノウハウがあります。ですから、それを活用していただきたいです。それは、高いハードルではないはずですが、これを、学校で集団接種ということになりますと。

会場 (長尾) 学校で任意接種でいいです。前橋レポートとか、インフルエンザ訴訟のトラウマがあると思います。だけど、それを乗り越えて学校での任意接種をして欲しいです。

足立 もちろん私の答えとしては、検討しますということが一番良いのですが、まずは今はやれるようになっていくところをしっかりと利用していただきたいというのが私の立場です。

会場 (長尾) どちらかと言うと保健所とかは、一般の方とか基礎疾患を持っている方が一番利用しやすいところではないかと思います。子供はやはり学校の方が効率が良いのではないかと思います。

司会 (上) その話は先生のところの医師会と学校でまずやってみられると良いですよ。

会場 (長尾) それは、法律でダメです。

司会 (上) 何法の何ですか？

会場 (長尾) 要するに、集団接種法でしょう。今回任意接種になっていますよね。これを集団接種法に変えないといけないと思います。

司会 (上) 医療法ではなくてですか？

会場 (長尾) 私は専門ではないので分かりませんが、予防接種法だと思います。

会場 (田口) 構想日本の田口と申します。政務官が切った上で再建すると仰っていたので是非この機会にインフルエンザではないのですが、メディアの話も含めてお聞きしたいです。

今、構想日本の加藤が刷新会議で事業仕分けをやっています。おそらく、マニフェストで提示すると書いてあった2,200億円以上の医療費の削減が一時的にですが停止ということが起こると思いますが、それと同時に、大臣が仰っていた診療報酬増ということと、その整合性を正しくメディアに伝えてもらわないと、また間違った医療費削減みたいなことを大々的に報じられてしまう可能性があると思うので、そこら辺を上手く仙谷大臣

と足立政務官が連携してどういう形でメッセージを出されるのかというご見解をお聞きしたいです。

足立 11月いっぱい、来年度の概算要求の内容も含め、どれだけの所謂無駄なお金が出せるかによって、12月の予算折衝で我々がどれだけ厚生労働行政に使えるかが相当決まってくると思います。私が今やろうとしていることは、今回の地域医療再生基金について私はあえて言いますが、全部削っても良いのかなと思っています。それは、全国に348ある二次医療圏の中で94だけ選んでそこでやっていくようなものなのか。全体的な底上げをしなければいけないのではないのかという考え方から、それはもう少し広く言うと、特定医療機関と言いますか補助金制度です。全体の報酬を低く抑えてこの病院だけに補助金を付けるというやり方が、今の地域偏在を生んでいます。地域の中でも、病院とその周りの方々との格差や偏在を生んでいる。ここが大きな間違えの元だという認識がきつくないのでしょうかね。補助金行政をやっているならば、自分達がそこを支配出来るような感覚がまだあるのかもしれない。ただ、診療報酬とすると、患者さんの負担は増えます。保健料の負担も増えます。それを国民が受け入れてくれるかどうか。補助金システムであれば税金を使います。これで税金も増えるかもしれません。ただ、我々は税の無駄遣いを出来るだけ捻出して止めさせようとしておりますが、診療報酬と言った時に、国民の皆さんがそれを受け入れてくれる。そのための会議が私は必要だと思っています。そのためだけではありません。受けたい医療、受けたい介護を受けられるために、我々国民はどれだけ負担をすべきなのか。そういうこ

とを多くのステークホルダーが集まった国民会議で、私は検討していただきたいとそうように思っております。11月に補助金をはじめ例えば電子レセプトでレセプトがオンライン化のところを電子媒体で全部良いという通知を出し直します。この部分でも100億円近くが出ていきますし、小さなことの積み重ねかもしれませんが、そこで、我々が努力をして無駄遣いをやめた部分は、私はまずは今出血状態である医療にそれを全額向けられるように努力したいと思います。12月は、そういう闘いがあるのだろうと思います。今の段階でくたばってはいけなと思います。実は、先程の9月の12日間で2kg位私は痩せました。頑張ります。